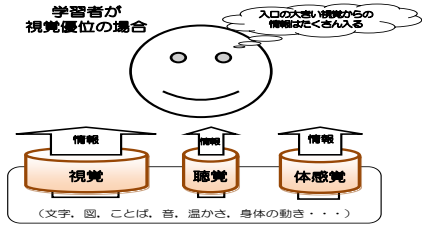



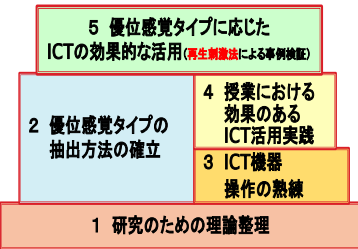








【様式1】平成26年度 県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	世羅町	学校名	世羅町立世羅中学校
校長名	内田 政彰	電話番号	0847-22-2323
分野・領域	<input type="checkbox"/> 人材育成 <input checked="" type="checkbox"/> 学力・学習意欲 <input type="checkbox"/> 生徒指導 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input type="checkbox"/> 学校・家庭・地域の連携・協力 <input type="checkbox"/> 学校経営 <input type="checkbox"/> 服務研修 <input checked="" type="checkbox"/> 教育研究 <input type="checkbox"/> 進路指導 <input type="checkbox"/> 食育 <input type="checkbox"/> 教育課程 <input type="checkbox"/> 体力づくり <input type="checkbox"/> 情報教育 <input type="checkbox"/> 伝統文化 <input type="checkbox"/> 情報発信 <input type="checkbox"/> 危機管理 <input type="checkbox"/> その他 ()		
研究主題	主体的に課題解決を図る生徒の育成 ～「書く活動」の工夫を通して思考力・表現力を培う～		
当該ページ のアドレス	http://www.edu.town.sera.hiroshima.jp/sera-jhs/index.htm		
研究内容	授業モデル <input type="checkbox"/> 課題設定→ <input type="checkbox"/> 個人思考→ <input type="checkbox"/> 集団思考→ <input type="checkbox"/> まとめ に沿った 授業展開の中で、視点の明確化と課題提示の工夫を行い、書く活動と小 集団活動を取り入れることで、生徒が課題解決を図るすべを身に付け、 活用できる力を育成する。 <取組の3つのポイント> ①すべの活用 思考のすべ：視点，比較，関係づけ，特徴 表現のすべ：相手意識，理由，構成，要約 ワークシートで習得する。適用問題で活用する。 ②書く活動 自分の力で書く。友達の考えを聞いて書く ③小集団学習 自分の考えを伝える。自分の考えが深まる。		
備考			

【様式1】平成26年度 県中校長会 Web ページ版教育便覧

市町名	世羅町	学校名	世羅西中学校						
校長名	松本貴文	電話番号	0847-37-1122						
分野・領域	<input type="checkbox"/> 人材育成 <input checked="" type="checkbox"/> 学力・学習意欲 <input type="checkbox"/> 生徒指導 <input type="checkbox"/> キャリア教育 <input type="checkbox"/> 学校・家庭・地域の連携・協力 <input type="checkbox"/> 学校経営 <input type="checkbox"/> 服務研修 <input type="checkbox"/> 教育研究 <input type="checkbox"/> 進路指導 <input type="checkbox"/> 食育 <input type="checkbox"/> 教育課程 <input type="checkbox"/> 体力づくり <input checked="" type="checkbox"/> 情報教育 <input type="checkbox"/> 伝統文化 <input type="checkbox"/> 情報発信 <input type="checkbox"/> 危機管理 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 特別支援教育 ）								
研究主題	「ICT を活用した効果的な通常学級における特別支援教育の開発」 ～優位感覚タイプの分析に基づいた ICT の効果的な活用～								
当該ページのアドレス	www.edu.town.sera.hiroshima.jp/seranishi-jhs/								
研究内容	<p>(1) 「優位感覚」の分析とターゲットパーソンの設定</p> <p>学習者は、文字や図、ことば、身体の動きといった「外部の情報」を3つの感覚（視覚・聴覚・体感覚）を通して取り入れる。その際、人によって感覚に優位性があると考えられる。</p>  <p>本校では、「生徒のタイプに応じて、支援の工夫ができる」ということに着目し、生徒の「優位感覚」を見取るため、本校独自に「チェックシート」を作成し、通常の学級に在籍する支援が必要な生徒がどの優位感覚をもっているかを身取り、これらの生徒をターゲットパーソンとして、ICT を利用した学習支援を工夫している。</p> <table border="1" data-bbox="842 1393 1276 1568"> <thead> <tr> <th>視覚優位</th> <th>聴覚優位</th> <th>体感覚優位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(3年) A・B・C (2年) E・F (1年) H </td> <td>(3年) D (2年) G (1年) I </td> <td>(3年) (2年) (1年) I </td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 研究を進める取組み</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究のための理論整理 ② 優位感覚タイプの抽出方法の確立 ③ ICT 機器操作の熟練 ④ 授業における効果のある ICT 活用実践 ⑤ 優位感覚タイプに応じた ICT の効果的な活用 			視覚優位	聴覚優位	体感覚優位	(3年) A・B・C (2年) E・F (1年) H 	(3年) D (2年) G (1年) I 	(3年) (2年) (1年) I 
視覚優位	聴覚優位	体感覚優位							
(3年) A・B・C (2年) E・F (1年) H 	(3年) D (2年) G (1年) I 	(3年) (2年) (1年) I 							
備考									